

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.123

萩ジオパーク推進協議会

| 2025年5月31日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765

☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <https://hagi-geopark.jp>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

📷 @hagi_geopark



直木賞作家・伊与原新さんがやってきた！

5月10日、11日の二日間にわたり、1月に短編集「藍を継ぐ海」※で直木賞を受賞された伊与原新さんをお招きしての受賞記念イベントを開催しました。

※萩・見島を舞台にした短編「夢化けの島」を含む。

初日の10日は、萩市民館で「伊与原新さん講演会&サイン会」が行われ、会場には山口県内外から約500人の方々にお越しいただきました。伊与原さんは「私の『夢化けの島』」と題して、萩・見島を舞台に選んだ経緯を含めた作品の背景や、取材のために見島を訪れた時のことなどをたっぷり語ってくださいました。元地球科学の研究者であり、小説家の伊与原さんから見た萩や見島についてのお話は、地元の方々にとっても魅力を再発見する機会になったのではないのでしょうか。



同時開催の展示・体験イベント「本と地球と萩焼と」では、萩焼作品展示、工作や実験等のワークショップ、そして関連書籍やオリジナルグッズの販売など、バラエティ豊かな13ものブースが並びました。地元の方々と力を合わせて一から作り上げたイベントです。サイン会終了後に会場をまわられた伊与原さんは「とても温かく迎えていただいているのが感じられて嬉しかった」と感激されていました。



そして翌11日は、いよいよ見島へ。伊与原さんと一緒に作品ゆかりの場所をめぐる「伊与原新さんと行く『夢化けの島』見島ツアー」が行われました。見島の現地の風景の中で、物語の世界がリアルに重なり、参加者の皆さんからは「一生の思い出になった」との声も。伊与原さんは、作品の舞台を再び訪れることも、読者の方とこうして過ごすことも初めての経験だったそうで、とても喜んでくださっていました。

今回のイベントは1月の直木賞発表後に急遽立ち上がった企画で、時間も予算もない中、ここには載せきれないほど多くの方々のご協力で実現しました。これまでの活動の中で培ってきた人と人のつながりを再確認しましたし、新たに関わってくださった方も多く、活動の輪が大きく広がったことも感じています。ご協力いただいた皆さま、そして何より、このような機会をくださった伊与原新さんに、心より感謝申し上げます。萩ジオパークでは、これからも、大地と人、人と人のつながりを育てる取り組みを続けていきます。また次の出会いを、どうぞ楽しみに。



笠山山頂展望台『鳶ノ巣』で感謝祭を開催

笠山山頂展望台は愛称を『鳶ノ巣』として、この4月に2周年を迎えたことから、GW期間（4月29日～5月11日）に、感謝祭を開催しました。

特に4月29日には、鳶ノ巣と山頂広場で、ジオパークのことを学んだり体験したりできる、クイズラリーやゲームなどを行い、家族連れのお客さんなどに楽しんでいただきました。

その他、展望台から見える見島や笠山山頂火口の地層などがガチャとなって鳶ノ巣に登場し、これを目当てに来られた方もいらっしゃいました。

カフェではGW期間限定メニューの販売も行い、笠山をイメージしたフローズンヨーグルトなど、鳶ノ巣ならではのメニューを多くのお客さんに味わっていただきました。



森フェスに出展

5月4日に国立山口徳地青少年自然の家で開催された「第10回 森フェス～とくぢのONE博！EXPONTA 2025」にブース出展しました。昨年に続き2度目の参戦です。出展内容は「手のひら地形模型を作ろう！～山口の山々ver～」で、石こう製の地形模型に絵の具で色を付けるというものです。会場が徳地ということで、山口市の4つの山（十種ヶ峰、鴻ノ峰、火の山、長者ヶ原）から一つを選んでもらうようにしました。「自分の家の近くだ！」と喜ぶ方や、山の形の好みで選ぶ方など、それぞれの楽しみ方をされていましたが、皆さん色をぬり始めると何十分も集中して真剣に作業に没頭されていました。大変好評で終始満席。用意していた材料は午前中のうちに完売し、午後は予備で用意していた萩の火山バージョンに切り替えて再開しました。「ジオパーク、最近よく聞きます」なんていう嬉しいお声がけも何人かの方からいただきました。山口市徳地は萩ジオパークの範囲外ですが、多くの山口市民の方々に取り組みを知っていただいたり、ジオパークの視点を知っていただける機会になりました。



須佐わくわくフェスタに出展

5月3日、4日に開催された「須佐わくわくフェスタ」の体験プログラムに萩ジオツーリズム協会が「萩の大地の恵みスマートボール」、須佐PR☆COMPANYが「スサギンチャクづくり」で出展しました。

スサギンチャクは、須佐中学校の生徒がデザインした須佐地域のジオサイトや特産品、名所をステンシルで巾着袋に転写するものです。当日は、地元の中학생や高校生が手伝ってくれました。体験をしに来た方に手順を丁寧に説明したり、須佐の魅力を説明したりしていました。



多磨小学校出前授業

5月15日は、萩市田万川の萩市立多磨小学校に、白井専門員が出前授業に行きました。5－6年生の総合的な学習の時間で地域について学ぶにあたり、ジオパークの視点で暮らしや産業の特徴を知りたいというご依頼でした。

最初に、3つの地域の砂浜の砂を見てどれが田万川のものかを当てるクイズをしました。一見同じ砂のようでも、色や粒の大きさなどが微妙にちがいます。みなさん、よく観察しながら頭の中の記憶と照らし合わせて答えを導き出していました。国内外のその他の砂浜の写真もお見せして、場所によって大地の成り立ちが違い、景色も違うということを知ってもらいました。

後半は、地形が強調された地図をながめながら、田万川の産業や暮らしと大地のつながりを考えてもらいました。田万川で定置網漁が盛んなのはなぜだろう？ここに港があるのはなぜだろう？田んぼはどういう場所にあるだろう？マグマの活動でできた特徴的な「高山」や、時々氾濫する「田万川」が、そういった当たり前のように深く関わっていることを知ってもらいました。

萩ジオパークでは、学校の先生向けの研修会を毎年開催していますが、今回の出前授業はそれに参加された先生からのご依頼でした。ジオパークの視点が子どもたちの学びに必要なだと思っただけで呼んでいただけるとは嬉しいことですね。



令和7年度 萩ジオパーク推進協議会定期総会を開催

5月20日（火）、萩ジオパーク推進協議会の定期総会を萩・明倫学舎で開催しました。

「令和6年度事業報告・決算」「令和7年度事業計画・予算」「会員の入退会」「役員を選任」が議案として提出され、すべて原案通り可決されました。

事業報告の中では、学校からのジオパークに関する授業や研修などの依頼が過去最多となったこと、2年前から始めた笠山山頂展望台の鳶ノ巣カフェが好評で利用者数や売上が前年度を上回ったこと、ABUキャンプフィールドの周年祭に合わせて「萩ジオパークフェア2025」を開催し来場者が約2000人あったことなどが報告されました。

令和7年度は、5月10日（土）～11日（日）に直木賞作家伊与原新さんの講演会や関連企画などを実施したほか、今後、令和8～11年度の萩ジオパークの基本計画・行動計画の作成や、令和8年度に予定されている日本ジオパーク再認定審査に向けての準備を行います。また、新会員として一般社団法人あぶナビさんの入会と、新副会長として一般社団法人須佐おもてなし協会の福島淳也さん、山口市阿東総合支所の森原久さんの選任が承認されました。総会の最後には、脇田戦略顧問と袖洞戦略顧問からの講評や、それをうけての意見交換があり、次期萩ジオパークの展開に向けて会員の方々の主体的な活動の推進や、会員同士や事務局との対話の機会をつくる必要があることなどを確認しました。



わっきー教授のジオ・ワールド

⑪ 重なる地層：グランドキャニオン(アメリカ合衆国)

グランド・キャニオンは、アメリカ合衆国アリゾナ州北部にある渓谷です。コロラド高原を、コロラド川が浸食して、削り出した地形が見事に現れています。コロラド高原には、ほぼ水平に地層や岩石が分布していて、川の底には古い岩石が、高原の上の方には新しい岩石があります。最も古い岩石は、約19億5000万年前に形成されたビッシュヌ片麻岩で、最も新しい岩石は、約2億7000万年前に形成されたカイバブ石灰岩です。グランド・キャニオンの1番若い岩石と、菥ジオパークの1番古い岩石（半田地区の石灰岩）が同じ年代の同じ石灰岩というのも、奇遇ですね。日本のような変動帯の地層の多くは、褶曲で曲げられたり、断層で切られたりしています。でも、アメリカなど安定大陸の中央の地層は、グランド・キャニオンのように、曲がることもなく水平に広がっています。このような違いを知ること、ジオパークの楽しみの一つです。須佐の畳岩は、ほぼ水平ですって？確かにそうですね。でも、畳岩の延長部も他の場所では傾いたり曲がったりしています。畳岩が水平なことも、奇跡的な出来事なのかもしれませんよ。



直木賞受賞「藍を継ぐ海」をイメージしたオリジナル商品

「夢化けの島」コーヒー&ハーブティーを鳶ノ巣カフェで期間限定販売！

菥ジオパーク推進協議会は、見島が舞台の小説「夢化けの島」が収録された短編集「藍を継ぐ海」の直木賞受賞を記念し、作品をイメージしたオリジナル商品（コーヒー、ハーブティー）を菥ジオパークパートナー協力のもと開発し、5月10日（土）に開催された著者・伊与原氏の講演会会場で販売しました。5月24日（土）から、笠山山頂展望台「鳶ノ巣カフェ」でも期間限定（6月29日（日）まで）で販売しています。見島と同じく火山の島であるインドネシアやパプアニューギニアの豆を使用したコーヒーや、バタフライピーという青色のハーブで見島の海の色をイメージしたハーブティー（写真のようにレモン果汁で見島土のような赤色に“化け”ます）で、こだわりの商品です。お持ち帰り用のパッケージデザインは見島出身・在住の長富幸子氏（アトリエカルトン）が担当しています。



- 「夢化けの島」コーヒー（協力：菥コーヒー・ルポ） 価格 500円
※お持ち帰り用（ドリップパック2個入り 500円）もあります
- 「夢化けの島」ハーブティー（協力：Tot Garden） 価格 300円
※お持ち帰り用（ティーパック3個入り 500円）もあります



【お知らせ】笠山山頂展望台『鳶ノ巣』屋根改修工事に伴う入場制限について

- ◆工事期間 6月中旬まで
- ◆入場制限 工事期間中は3階立入禁止（2階カフェは入場できます）6月上中旬に数日程度全面立入禁止
- ※具体的な日にちについては、決まり次第、菥ジオパーク推進協議会ホームページやSNS等でお知らせいたします。
- ※期間は変更となる場合があります。
- ご迷惑をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いたします。

6月の予定

- geoとも(菥ジオ友の会)定例会 6月21日(土) 内容:「奈古のまち、路地散策」と題し、江戸時代に大井鷯山の火山岩を船で運ぶ拠点となった奈古の町を散策 参加:会員のみ限定 主催・問合せ:geoとも(中西 080-8747-9383)